



蓬左文庫

文学部教授 沢井耐三

日本の古典文学を専攻する者にとって、古い書物を所蔵する各地の文庫・図書館は重宝の上もない、ありがたい存在である。

卒業論文に、「連歌」という、そのころ作品がほとんど活字化されていない分野をテーマに選んだことから、大学4年生の春ごろから、あちこちの図書館に出かけて、貴重な本を見せてもらった。

しかし、ぶつつけ本番で、古い写本や版本に接しても、悲しいかな、その文字がよく読めない。鉛筆を置き、腕組みをして、文字面と睨めっこ、という場合がしばしばあり、結局は読みきれずに、鉛筆でなぞり書きして帰り、『五体字類』などで調べる一方、教授のところへ持ち込んで判読してもらうことも少なくなかった。

夏休みには、連歌の本が多くある京大図書館、大阪天満宮、天理図書館を訪れ、時間と競争で筆写に励んだが、大阪天満宮では昼時になって雨が降り出し、外出できないときに、手作りのお昼をご馳走になったということもあったし、また、旅費節約のため、天理大学の学生寮に宿泊をお願いしたときには、あの柔道部のOBの若い舎監さんが自室に泊めてくださり、あれこれ随分親切にしてくださった。訪書旅行に関しては、楽しかったこと、困惑したこと等々、思い出は尽きない。

大学院生になってからは、尊経閣文庫、静嘉堂文庫、国立国会図書館、東洋文庫、内閣文庫など、近場の文庫へしばしば足を運んだが、昭和48年、愛知大学に赴任してからは、早速、西尾市の岩瀬文庫、刈谷市の村上文庫、豊橋市の羽田野文庫、橋良文庫、新城市の牧野文庫などを訪れた。その中で、久曾神昇先生のご紹介を得、私設の穂久邇（ほのくに）

文庫の貴重書を拝見・利用させてもらったことは、この上ない幸せであった。

名古屋で、貴重な古典籍をたくさん所蔵する所といえば、旧尾張藩主徳川家の蔵書を伝える蓬左文庫であろう。「蓬左」は熱田の左（北）を意味する語で名古屋を指す。場所は徳川美術館の隣り。愛知大学車道校舎の前の、車道通りをそのまま北上して、突き当たったところが蓬左文庫である。工事のためしばらく休館していたが、平成16年11月新装となり、一般公開された。名古屋市の所管であるので、閲覧のための紹介状などは要らない。

蔵書には、徳川家康から譲られた“駿河御譲本”を中心に約十一万冊、日本・中国・朝鮮の貴重な書籍や尾張関係の史料を有し、文学・歴史のみならず、宗教・政治・地理・医学などひろい分野を網羅している。

文庫を訪れる前に、蓬左文庫のホーム・ページを見ておくこと。そしてPC検索、あるいは『名古屋市蓬左文庫国書分類目録』（同様に漢籍、古文書古地図、尾崎久弥旧蔵本などの目録がある）で、見せてもらう書物を調べておくことが望ましい。

時間に余裕があれば、徳川美術館の尤品を鑑賞するのも楽しいだろう（こちらは有料。愛大生は無料。下の※参照）。

所 在：名古屋市東区徳川町1001（徳川園内）
電 話：052-935-2173
開館時間：閲覧室【閉架図書】 9:30～12:00
13:00～17:00
【開架図書】 9:30～17:00
：展示室 10:00～17:00
交 通：市バス・名鉄バス徳川園新出来下車徒歩5分
JR中央線大曾根下車南口より徒歩10分
※愛知大学は「徳川美術館大学メンバーシップ」に加入しており学生は学生証を提示、専任教職員は身分証明書等を提示すれば、無料入館できます。

編集・発行 愛知大学図書館

2005年6月20日発行 No. 31

■豊橋図書館 〒441-8522 豊橋市町畑町字町畑1-1 ☎(0532) 47-4181
■名古屋図書館 〒470-0296 西加茂郡三好町黒笹370 ☎(0561) 36-1115
■車道図書館 〒461-8641 名古屋市東区筒井二丁目10-31 ☎(052) 937-8116
URL <http://library.aichi-u.ac.jp>